

横手市・大雄小児童が収穫体験

**地元産ホップ° いい香り**



横手市の大雄小学校の4年生27人が28日、校舎前の花壇で育てた地元特産のホップの収穫作業を行い、ビールの原料になる毬花を摘み取った。地域への理解を深める総合的な学習の時間の一環。

大雄ホップ農業協同組合の指導の下、児童は4月からホップ栽培に取り組んでいる。株の不要な芽や根を取り除く「株ごしらえ」に始まり、

成長を観察しながら水やりなど手入れを行ってきた。

収穫は同農協の土田章之組合長（71）や地域おこし協力隊員の北野泰之さん（58）らが協力。高さ約5㍎に伸びたつるを切り落とし、児童が長さ3,4㍎ほどの毬花を丁寧に摘み取った。想定以上の豊作だったため、3年生の児童も手伝った。去年は乾燥後の重さで約3㍎の収量だったが、今年は1・5倍ほどの量になる見込みという。児童はホップを顔に近づけ「いい香りがする」などと言いながら、摘み取り作業にいそしんだ。4年の安藤菜生さんは「数が多くて1個ずつ摘み取るのは大変だった。大雄が日本有数のホップ産地なのはすごい」と話した。

収穫したホップは同農協が乾燥させ、香りを楽しむポップリを児童に贈ったり、大雄産ホップのPR活動に使う展示用サンプルに活用したりする予定という。

土田組合長は「大雄が全国一のホップ生産量であることを子どもたちが誇りに思ってくれるとうれしい。将来ビールを飲む機会があれば栽培体験や古里を思い出してほしい」と語った。

（佐藤悠大）

（令和7年9月3日（水）秋田魁新聞より一部抜粋）